

# トキ 野生復帰にむけて

17

## トキのえさ ドジョウ

野生のトキは、田んぼや川で生きたドジョウやカエル、イモリ、サンショウウオ、サワガニ、タニシなど様々な種類の水生動物を食べて暮らしていました。トキが生きていたころ、佐渡の水辺にはドジョウやメダカなど多くの水生生物がすんでいました。しかし、河川整備やほ場整備が進み、稲作が近代化されて水田転作がはじめられたころから、かつてトキがえさ場になっていた里山の自然環境は大きく変わってしまいました。現在では、ドジョウやカエルなどのトキのえさとなる小動物の量が少なくなり、トキを野生にもどした場合のえさ不足が心配されています。

### 佐渡トキ保護センターでは年間6tのドジョウが必要

佐渡トキ保護センターでは現在80羽のトキが人工飼育されています。飼育しているトキには、えさとしてドジョウと馬肉を主体にした人工飼料を組み合わせて与えています。トキの成鳥は毎日およそ200gのドジョウを食べるといわれ、トキ保護センターでトキ



NPO法人が経営する相川二見にあるドジョウ養殖施設

に給餌するドジョウの量は年間約6tにもなります。現在、センターではこのドジョウのほぼ全量を東京の築地市場と茨城県の養殖業者から購入しています。新穂正明寺地区で建設が進められている野生順化施設が完成して試験放鳥がはじまると、野外給餌も必要になるために、ドジョウの需要は現在よりさらに増加すると見込まれています。現在、佐渡島内ではNPO法人が相川二見地内で本格的にドジョウの養殖に取り組んでいます。トキ保護センターへの出荷量は月5kgとまだまだ多くありません。

### 新穂大野で養殖試験を実施

旧新穂村では平成11年から新穂大野山中の水田50aに養殖池を造成して、新潟県内水面水産試験場の指導によりドジョウの養殖試験に取り組んでいます。この事業は合併後も佐渡市に引き継がれて実施されており、平成17年度に内水面試験場では、佐渡産のドジョウ157尾から、人工ふ化により7万7000尾の稚魚がかえり、そのうち5万7000尾が大野の養殖池に放流されました。一部は、前浜地域でトキのえさ場として管理されているピオトープにも放されています。



新穂大野にある佐渡市のドジョウ養殖試験池

### ドジョウ養殖助成事業

このように先進的な取り組みは行われていますが、島内での生産体制はまだ確立されていないのが現状です。市では今年度から「ドジョウ養殖助成



トキの好物ドジョウ。全長10～15cmで、口ひげが10本ある。

事業」を新規事業として実施します。この事業は、島内でのドジョウの生産体制の整備を図り、トキ保護センター等への供給量を増やすために、ドジョウ養殖を新規にはじめる農家や事業所に対して資材費や工事費など必要経費の一部を助成するものです。ピオトープを設置して本格的にドジョウ養殖事業に取り組むには、10a当り100万円程度の初期投資が必要とされています。しかし、簡易な養殖池を造成してドジョウ養殖をはじめるといった場合は35万円ほどの経費で着手できるといわれています。人工ふ化技術の確立などまだ課題も多くありますが、市では新潟県と連携して養殖技術の研修会を開催するなどして、養殖に取り組む方の支援をしていくことにしています。

この助成事業については、環境課トキ推進室にお問い合わせください。  
環境課トキ推進室(新穂支所内)  
☎ 22 3111



# トキ 野生復帰にむけて

17

## トキのえさ ドジョウ

野生のトキは、田んぼや川で生きたドジョウやカエル、イモリ、サンショウウオ、サワガニ、タニシなど様々な種類の水生動物を食べて暮らしていました。トキが生きていたころ、佐渡の水辺にはドジョウやメダカなど多くの水生生物がすんでいました。しかし、河川整備やほ場整備が進み、稲作が近代化されて水田転作がはじめられたころから、かつてトキがえさ場になっていた里山の自然環境は大きく変わってしまいました。現在では、ドジョウやカエルなどのトキのえさとなる小動物の量が少なくなり、トキを野生にもどした場合のえさ不足が心配されています。

### 佐渡トキ保護センターでは年間6tのドジョウが必要

佐渡トキ保護センターでは現在80羽のトキが人工飼育されています。飼育しているトキには、えさとしてドジョウと馬肉を主体にした人工飼料を組み合わせて与えています。トキの成鳥は毎日およそ200gのドジョウを食べるといわれ、トキ保護センターでトキ



NPO法人が経営する相川二見にあるドジョウ養殖施設

に給餌するドジョウの量は年間約6tにもなります。現在、センターではこのドジョウのほぼ全量を東京の築地市場と茨城県の養殖業者から購入しています。新穂正明寺地区で建設が進められている野生順化施設が完成して試験放鳥がはじまると、野外給餌も必要になるために、ドジョウの需要は現在よりさらに増加すると見込まれています。

現在、佐渡島内ではNPO法人が相川二見地内で本格的にドジョウの養殖に取り組んでいます。トキ保護センターへの出荷量は月5kgとまだまだ多くありません。

### 新穂大野で養殖試験を実施

旧新穂村では平成11年から新穂大野山中の水田50aに養殖池を造成して、新潟県内水面水産試験場の指導によりドジョウの養殖試験に取り組んでいます。この事業は合併後も佐渡市に引き継がれて実施されており、平成17年度に内水面試験場では、佐渡産のドジョウ157尾から、人工ふ化により7万7000尾の稚魚がかえり、そのうち5万7000尾が大野の養殖池に放流されました。一部は、前浜地域でトキのえさ場として管理されているピオトープにも放されています。



新穂大野にある佐渡市のドジョウ養殖試験池

### ドジョウ養殖助成事業

このように先進的な取り組みは行われていますが、島内での生産体制はまだ確立されていないのが現状です。市では今年度から「ドジョウ養殖助成



トキの好物ドジョウ。全長10～15cmで、口ひげが10本ある。

事業」を新規事業として実施します。この事業は、島内でのドジョウの生産体制の整備を図り、トキ保護センター等への供給量を増やすために、ドジョウ養殖を新規にはじめる農家や事業所に対して資材費や工事費など必要経費の一部を助成するものです。ピオトープを設置して本格的にドジョウ養殖事業に取り組むには、10a当り100万円程度の初期投資が必要とされています。しかし、簡易な養殖池を造成してドジョウ養殖をはじめるといった場合は35万円ほどの経費で着手できるといわれています。人工ふ化技術の確立などまだ課題も多くありますが、市では新潟県と連携して養殖技術の研修会を開催するなどして、養殖に取り組む方の支援をしていくことにしています。

この助成事業については、環境課トキ推進室にお問い合わせください。  
環境課トキ推進室(新穂支所内)  
☎ 22 3111



# 市民環境アンケート調査結果

～アンケートへのご協力ありがとうございました～

市では、環境基本計画の策定にあたり、市民や事業者等から幅広く関与してもらうため、昨年8月～9月に「市民環境アンケート」(市民、事業者、小・中学校教職員)を実施しました。

「ご協力をいただきました皆さんに心から感謝申し上げます、アンケート結果の概要をご報告します。なお、紙面の都合により、「市民環境アンケート(市民版)」の抜粋を掲載します。

市民環境アンケート(市民版)では、環境全般に関する26の項目について尋ねました。

身近な環境の状況認識について尋ねたところ、生活環境については10年前と比べて「良くなった」39.1%、「が多いものの、変わらない」22.6%、「悪くなった」22.4%、「ともに均衡しました。また、自然環境については「悪くなった」38.6%、「が多いものの、良くなった」26.0%、「変わらない」25.9%、「ともに均衡しています」。

生活環境が「良くなった」、「悪くなった」と感じる理由については、双方とも「ごみの不法投棄や野焼き」をあげています。(減った19.6%・増えた13.4%)

また、自然環境が「良くなった」と感じる理由については「街中の緑が多くなった」9.1%、「がトップ、悪くなった」については「農村の自然や景観が失われてきた」16.1%「となっております」。

地区別の「良い環境、誇れる環境」

については、「豊かな自然環境」44.0%、「悪い環境、改善したい環境」では「ごみの不法投棄」31.8%がトップであり、「タヌキなどの鳥獣からの被害」29.1%が続きました。しかしながら、相川・真野・小木地区では「海岸の漂着ごみ」、新穂・羽茂・赤泊地区では「タヌキなどの鳥獣からの被害」がトップとなっております。

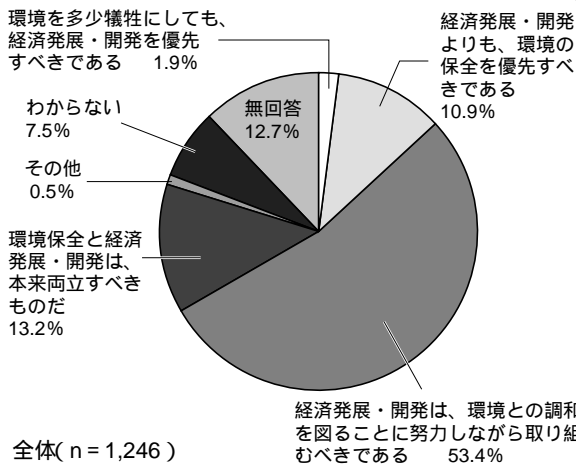
環境問題についての関心については、身近な生活環境から地球環境問題まで、幅広く関心があることが分かりました。この内、特に重点的に取り組むべき施策については「大気、水、土壌、地下水などを良好な状態に保全する」(45.7%)、「がトップ、以下「廃棄物の減量化、適正処理、再生利用、再資源化の取組み」35.0%、「二酸化炭素の排出を抑制するなど、地球温暖化対策の取組み」29.1%が続きました。

その他の概要については、次のとおりです。

## 市民環境アンケート (市民版)

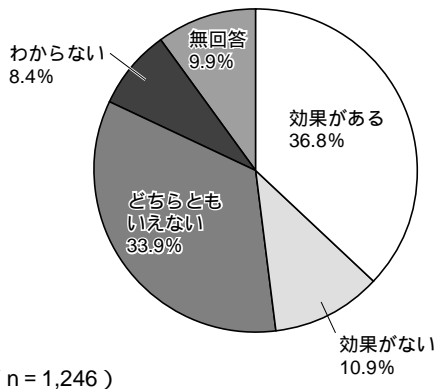
対象 20歳以上の市民2,750人を無作為抽出  
 実施期間 H17年8月  
 回収率 45.3%(1,246人)  
 男 46.1%(574人)  
 女 53.2%(663人)  
 無回答 0.7%(9人)

### 環境と経済の関係

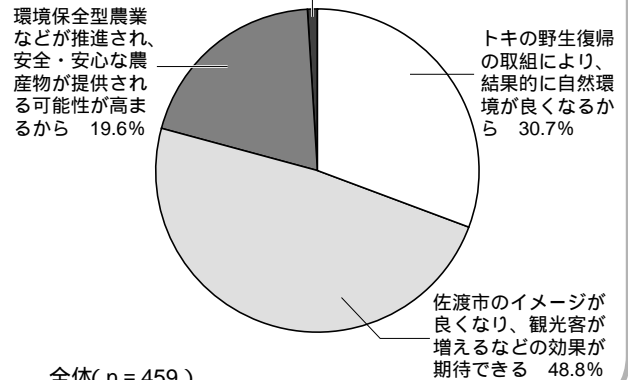


### トキ野生復帰

Q トキの野生復帰と地域振興

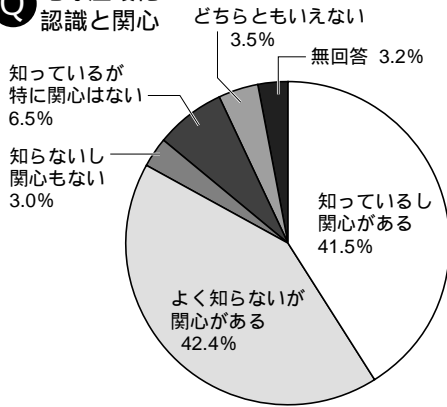


Q 効果があると思う理由



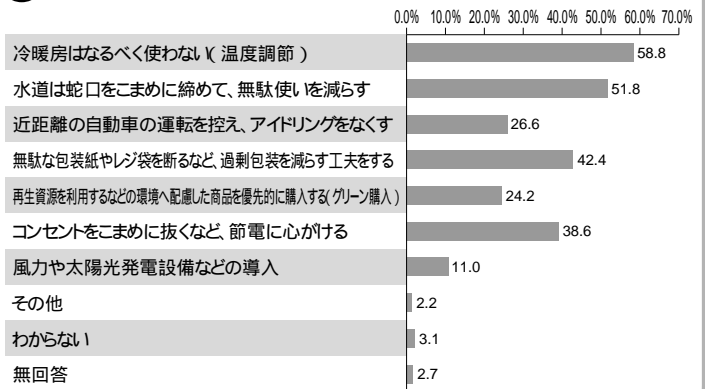
# 地球温暖化

## Q 地球温暖化の認識と関心



全体(n = 1,246)

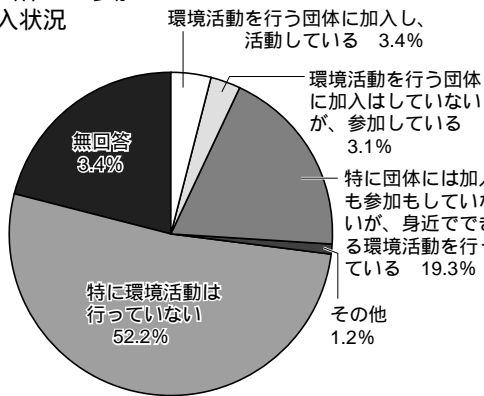
## Q 地球温暖化防止対策として心がけていること



全体(n = 1,246)

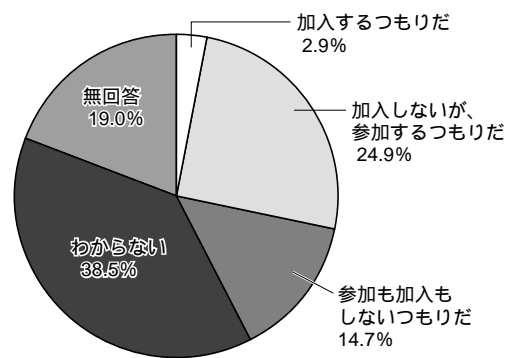
# 環境活動に関する取り組み

## Q 環境団体への参加・加入状況



全体(n = 1,246)

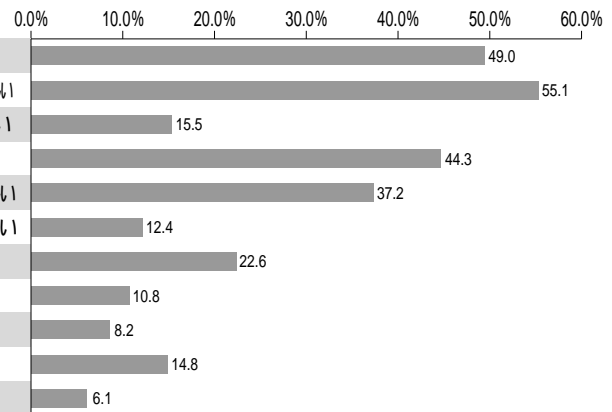
## Q 環境団体への加入・参加意向



全体(n = 1,246)

# の事業者や農林水産業等の

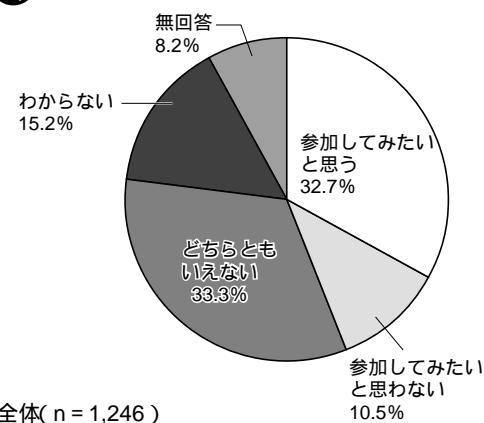
- 森林や河川・海岸の必要以上の開発は行わないでほしい
- 大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、悪臭などの公害が発生しないようにしっかりと管理を行ってほしい
- 小売店などでは環境に配慮した商品をなるべく多く扱うようにしてほしい
- 廃棄物の減量化、再生利用、再資源化に努力してほしい
- 廃棄物の不法投棄や野焼きなどを行わないよう適切な廃棄物処理を守ってほしい
- 電気やガスなどの省エネルギー(低公害車の導入を含む)に努力してほしい
- 風力・太陽光発電などの新エネルギーの導入に心がけてほしい
- 事業所の周辺に緑を増やすなど、景観を良くしてほしい
- 市民が行う環境保全活動に協力してほしい
- 環境に関する情報を公開してほしい
- その他(その他・わからない・無解答)



全体(n = 1,246)

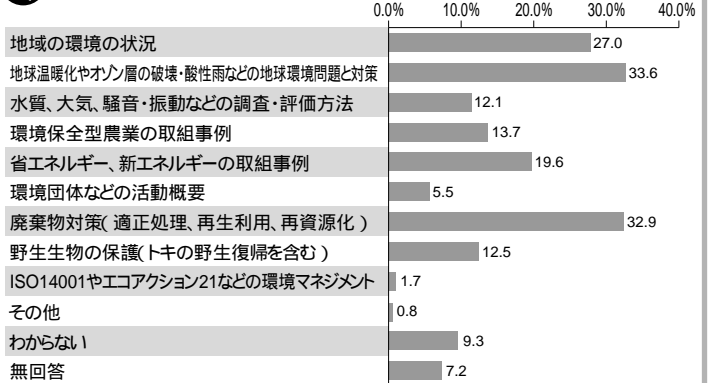
# 環境教育・環境学習

## Q 参加意向



全体(n = 1,246)

## Q 関心のあるテーマ



全体(n = 1,246)



## （お寄せいただいた意見です）（抜粋）

タバコの吸い殻を平気で捨てる人、買い物袋に空き缶を入れて捨てる人、橋の上から投げ捨てる人、心無い人が大勢いて残念でたまりません。自分の土地、自分たちの島だと思つて住みよい地域にしたいです。

家の裏でごみを燃やす人がいて、時々プラスチック製品を燃やすのか悪臭がすることがあります。ぜんそくの子どもがいるので野焼きをやめて欲しいと思つています。

資源ごみの回収が少なすぎます。古紙は、普通のごみ回収場所まで回収、資源ごみはビニール袋等を使わず、大型バスケット等で回収するようにして欲しい。

工「バック」の配布は良い取り組みと思いましたが、とにかく使い捨てをやめるよう、まず努力しようと思えます。

佐渡を美しくする会などが実施する環境美化活動を休日に実施して欲しい。そして他のボランティア団体と連携し、全島一斉清掃を行うことで、市民PRをして欲しい。市にはその調整役をお願いしたい。

トキの野生化に伴い新たな問題対策（鳥害、農作物への影響）も必要となる。何のための、誰のためのトキ野生復帰なのか、もつと市民の理解を深める必要がある。

松くい虫対策が十分でなかったため、森林が荒廃している。耕作放棄地も多く早急に改善する取組みが必要。

河川工事では、魚道を必ず設置する等、公共工事は、自然とマッチした工法でお願いしたい。工費が高くなつても生物のことを考えることが大切。

鳥やトンボ、チョウ、ホタルの飛び交う河川が欲しい。子どもたちが川に入りアユなどじょうざりが取れるような場所です。公園にも、森林浴が感じられるような日陰のある場所が欲しい。

下水道加入率があまりよくないようだ。市は加入促進を積極的に行うべき。

子どもたちは空き缶を捨てない。大人（青年）が捨てて子どもに拾わせている。良くない。教育委員会は学校教育だけではなく社会教育にもつと力を入れて欲しい。

## 「佐渡市市民環境大学 連携講座」の募集について

平成18年度市民環境大学の開設にあたり、「市民環境大学 連携講座」を募集します。連携講座は、皆さんが平成18年度に開催を予定している「環境」をテーマとした講座・イベント等になります。

市民環境大学では、市民環境大学開設の目的に賛同する方々以下「連携団体」というが実施する事業を連携講座として位置づけ、共同で広報しあうことにより、「人とトキが共に生きる島づくり」に向けた機運の醸成や、連携の輪の広がりを目指しています。

**連携講座は、補助金交付や会場確保等、市民環境大学が主催団体に直接的な支援を行うものではありません。**

### 募集概要

**対象団体** 市民団体・NPO、企業、大学、学校（行政など）

**対象事業** 広く「環境」をテーマとした講座・イベント等（見学会、学習会、観覧会、シンポジウム等）

（例）市民団体・NPOが行う環境保全活動・講座、企業等が行う社会貢献活動、大学・専門学校等が行う講座

ただし、「特定の市民のみを対象としたものではなく、広く市民の参加が可能なもの」等といった要件があります。

**主な広報活動** 市民環境大学/市民環境大学HPへの掲載等

連携団体/チラシ、パンフレット、看板等への、佐渡市市民環境大学連携講座」記載による市民環境大学のPR等

### 募集期間

随時申込ができます（募集期間や申込期限はありません）。ただし、平成18年度市民環境大学開設にあたり、6月13日をもって周知パンフレットの各戸配布を予定しています。

掲載を希望される場合は、5月12日（金）までに申し込みください。

申込・問い合わせ先

市役所 環境課 環境企画係

☎ 63 3113

# 4月からの国民年金制度の改正について！

障害基礎年金と老齢厚生年金等を併せて受給できるようにになります

障害を持ちながら働いたことが評価される仕組みとして、65歳以上の方は、**障害基礎年金と老齢厚生年金**、**障害基礎年金と遺族厚生年金**の組み合わせについて、併せて受給（併給）することができるようになります。

なお、併給を申請する場合は、手続きが必要となります。

問い合わせ先  
ねんきんダイヤル  
☎0570 05 1165  
新潟西社会保険事務所  
☎025 225 3001

平成18年度の年金額は0.3%引き下げとなります

平成17年の平均の全国消費者物価指数が、対前年マイナス0.3%であったため、老齢基礎年金（満額）の場合は、月額200円ほど引き下



げとなります。  
6月の定期支払い（4月および5月）から年金額が変更となります。

学生納付特例制度について

国民年金は、職業・収入に関係なく、日本に住所がある20歳から60歳までのすべての人が加入することになっており、学生も20歳になったら国民年金に加入し、保険料を納めなくてはなりません。

しかし、学生は所得がない、あるいは少ないなどの理由で、保険料を納めることが困難な場合があります。そのようなときは、学生納付特例制度をご利用ください。承認を受けると、保険料の納付を猶予され、社会人になってから支払うことができます。申請は毎年必要です。

学生納付特例申請手続きに必要なもの  
・年金手帳  
・印鑑（本人が署名する場合は不要）  
・学生証または在学証明書の写し  
・平成17年の所得がわかるもの

国民年金の手続きには、**基礎年金番号が必要**です！

国民年金に関する手続きや、問い合わせで窓口にお越しの際は、年金手帳または基礎年金番号通知書をお

持ちください。  
年金手帳または基礎年金番号通知書は、はじめて国民年金・厚生年金および共済組合等に加入したときに交付されます。

5月定例社会保険事務相談所（年金相談等）の開設について

佐和田商工会 ☎52 3148  
17日（水）

受付 午後1時30分～3時30分  
両津商工会 ☎27 5128

18日（木）  
受付 午前9時～11時

小木町商工会 ☎86 2216  
18日（木）  
受付 午前9時～10時30分

問い合わせ先

市民課 戸籍年金係

☎63 5112

各支所市民課 国民年金担当係  
または

新潟西社会保険事務所

☎025 225 3001

ねんきんダイヤル

☎0570 05 1165

（年金請求などに関する相談）

☎0570 07 1165  
（年金を受けている方の相談）

## 健康づくり教室

### 元気いきいき塾

受講生を募集します！

健康の秘けつは何ですか？ あなたが、家族が、そして地域が元気になるための教室を開催します。

5月から2月に10回1コースで予定しています。

教室修了生で希望される方は、地域での佐渡市健康推進員として活躍の場が広がります。

募集期間 5月12日（金）まで

興味のある方は 市役所保健医療課健康増進係（☎63 3115）、各支所福祉保健課または市民課にお申し込みください。  
（詳しい日程・申込書をさしあげます）

仲間ができる  
楽しくここにこ

体験や講義や  
話し合いで  
学びもたくさん

子育て・  
栄養・運動・  
介護まで内容  
盛りだくさん

